

本科 2 期 12 月度

解答

Z会東大進学教室

選抜東大クラス文系数学

東大文系数学

難関大文系数学 T

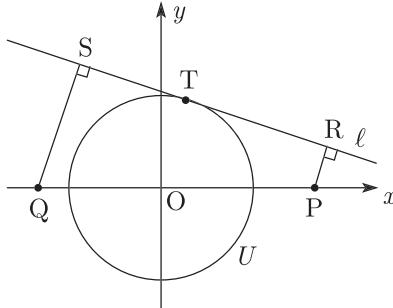


24章 図形 (2)

問題

【1】与えられた単位円を $U : x^2 + y^2 = 1$ とする。

図 1



(1) ℓ と U の接点 T の座標を $T(x_1, y_1)$ とすると、接線 ℓ の方程式は

$$\ell : x_1 x + y_1 y = 1$$

である。ここで、点 $T(x_1, y_1)$ は、単位円 U 上にあるから、

$$x_1^2 + y_1^2 = 1 \dots\dots\dots \textcircled{1}$$

が成り立つ。

点と直線との距離公式から、①によって

$$PR = \text{dist}(P, \ell) = \frac{|px_1 - 1|}{\sqrt{x_1^2 + y_1^2}} = |px_1 - 1|$$

$$QS = \text{dist}(Q, \ell) = \frac{|-qx_1 - 1|}{\sqrt{x_1^2 + y_1^2}} = |-qx_1 - 1|$$

最小にしたい $PR^2 + QS^2$ について、

$$\begin{aligned} PR^2 + QS^2 &= (|px_1 - 1|)^2 + (|-qx_1 - 1|)^2 \\ &= (p^2 + q^2)x_1^2 - 2(p - q)x_1 + 2 \\ &= (p^2 + q^2) \left(x_1 - \frac{p - q}{p^2 + q^2} \right)^2 + \frac{(p + q)^2}{p^2 + q^2} \end{aligned}$$

ここで、

$$0 < \frac{p - q}{p^2 + q^2} < \frac{p}{p^2} = \frac{1}{p} < 1 \quad (\because 1 < q < p)$$

である。

①より、 $-1 \leq x_1 \leq 1$ であるから、 $x_1 = \frac{p - q}{p^2 + q^2}$ のとき、 $PR^2 + QS^2$ は最小値

$$\frac{(p + q)^2}{p^2 + q^2}$$

以上より

$$\min(PR^2 + QS^2) = \frac{(p + q)^2}{p^2 + q^2} \quad \left(\text{ただし } x_1 = \frac{p - q}{p^2 + q^2} \right) \quad (\text{答})$$

(2) (1) での考察から

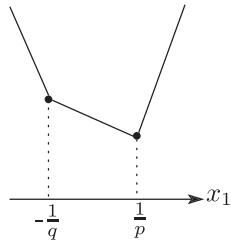
$$PR = |px_1 - 1|, \quad QS = |-qx_1 - 1| = |qx_1 + 1|$$

である。従って

$$\begin{aligned} PR + QS &= |px_1 - 1| + |qx_1 + 1| \\ &= \begin{cases} -(p+q)x_1 & \left(x_1 \leq -\frac{1}{q} \right) \\ -(p-q)x_1 + 2 & \left(-\frac{1}{q} \leq x_1 \leq \frac{1}{p} \right) \\ (p+q)x_1 & \left(\frac{1}{p} \leq x_1 \right) \end{cases} \end{aligned}$$

これを グラフ に表せば、図 2 のようになる。

図 2



この グラフ から $x_1 = \frac{1}{p}$ で $PR + QS$ は最小となる。

このとき、 $y_1 = \pm \sqrt{1 - \frac{1}{p^2}}$ となるから、求める ℓ の方程式は、

$$\ell : \frac{1}{p} x \pm \sqrt{1 - \frac{1}{p^2}} y = 1 \quad (\text{答})$$

【2】 $f(x, y) = 1 - ax - by - axy$ と置く。 y を固定して、 x のみの関数と考えると
 $f(x, y) = -(a + ay)x + 1 - by$

は、 x についての 1 次関数または定数関数となる。従って、 $-1 \leq x \leq 1$ における最小値は

$$f(-1, y) = (a - b)y + a + 1$$

$$f(1, y) = -(a + b)y - a + 1$$

の大きくなき方である。

これらは、 y についての 1 次関数または定数関数であるから、 $-1 \leq y \leq 1$ における最小値は

$$f(-1, -1) = b + 1, f(-1, 1) = 2a - b + 1$$

の大きくなき方、あるいは

$$f(1, -1) = b + 1, f(1, 1) = -2a - b + 1$$

の大きくなき方である。よって、最小値が正である条件は

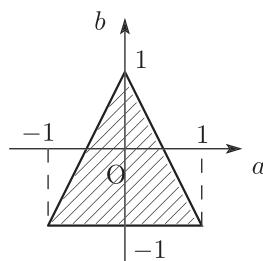
$$b + 1 > 0, 2a - b + 1 > 0, -2a - b + 1 > 0$$

より

$$b > -1, b < 2a + 1, b < -2a + 1$$

これを図示すると図 3 の斜線部となる。ただし、境界は含まない。(答)

図 3



【3】(1) 真数条件より,

$$0 < x < 2, \quad y > 0 \quad \dots \dots \dots \textcircled{1}$$

与えられた不等式を変形・整理して

$$\begin{aligned} \text{与式} &\iff \log_3 \left(\frac{x}{3}\right)^2 \leq \log_3 \frac{y}{3} \leq \log_3 \left\{\frac{1}{3}x(2-x)\right\} \quad (\because 1 = \log_3 3) \\ &\iff \left(\frac{x}{3}\right)^2 \leq \frac{y}{3} \leq \frac{1}{3}x(2-x) \\ &\iff \frac{1}{3}x^2 \leq y \leq x(2-x) \end{aligned}$$

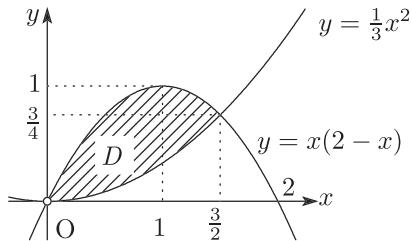
境界をなす曲線の交点を求める

$$\begin{aligned} x^2 = 6x - 3x^2 &\iff 4x \left(x - \frac{3}{2}\right) = 0 \\ \therefore (x, y) &= (0, 0), \left(\frac{3}{2}, \frac{3}{4}\right) \end{aligned}$$

よって求める領域 D は図 4 の斜線部分で、①より、(0, 0) 以外の境界は含む。

(答)

図 4



(2) 与式の値を k と置くと、

$$a < 2, \quad y - ax = k \quad \dots \dots \dots \textcircled{2}$$

は傾き a の直線を表し、 k はこの直線の y 切片である。

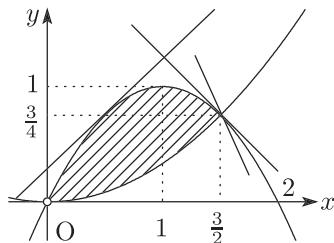
$$y = f(x) = x(2-x) = 2x - x^2 \text{ と置くと, } y = f(x) \text{ と直線 } \textcircled{2} \text{ が点 } (0, 0), \left(\frac{3}{2}, \frac{3}{4}\right)$$

で接するとき、傾きについて

$$f'(x) = 2 - 2x$$

$$\therefore f'(0) = 2, \quad f'\left(\frac{3}{2}\right) = 2 - 2 \cdot \frac{3}{2} = -1$$

図 5



(i) $a \leq -1$ の場合,

直線 ②が点 $\left(\frac{3}{2}, \frac{3}{4}\right)$ を通るとき, k は最大となるので,

$$M(a) = \max k = \frac{3}{4} - \frac{3}{2}a$$

(ii) $-1 < a < 2$ の場合,

直線 ②と $y = f(x)$ が $0 < x < \frac{3}{2}$ において接するとき k は最大となる. 2 次方程式

$$2x - x^2 = ax + k \iff x^2 + (a-2)x + k = 0$$

の判別式を D として,

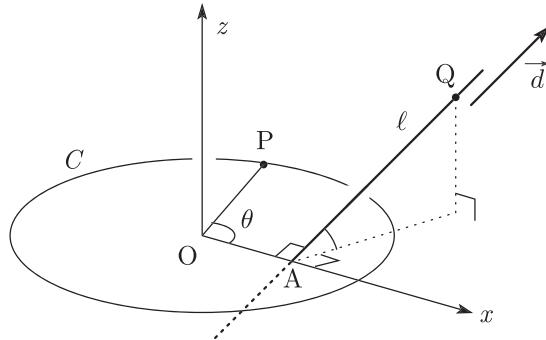
$$D = (a-2)^2 - 4k = 0 \iff k = \frac{1}{4}(a-2)^2$$

以上をまとめて, 次を得る :

$$M(a) = \begin{cases} \frac{3-6a}{4} & (x, y) = \left(\frac{3}{2}, \frac{3}{4}\right) \\ \frac{(a-2)^2}{4} & (x, y) = \left(-\frac{a-2}{2}, -\frac{a^2}{4} + 1\right) \end{cases} \quad (\text{答})$$

【4】中心 O を座標空間の原点にとり、線分 OA を x 軸正の部分に重ねると、 $A(a, 0, 0)$ であり、また円 C を xy 平面の単位円と見なすことができる。図 6 を参照せよ。

図 6



\overrightarrow{OP} の偏角、つまり \overrightarrow{OP} が x 軸正方向となす角（反時計回りに計る）を θ （ただし $0 \leq \theta < 2\pi$ ）とすれば、点 P の座標は $P(\cos \theta, \sin \theta, 0)$ である。

また、直線 ℓ の方向ベクトルは $\vec{d} = \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}$ であるから、実数のパラメータ t を用いて、

点 $Q(x, y, z)$ のパラメータ表示は

$$\begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} a \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix} + t \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} a \\ t \\ t \end{pmatrix}$$

となり、 $Q(a, t, t)$ である。

従って 2 点 P, Q 間の距離の平方 PQ^2 について、次の計算ができる：

$$\begin{aligned} PQ^2 &= (\cos \theta - a)^2 + (\sin \theta - t)^2 + t^2 \\ &= 2 \left(t - \frac{1}{2} \sin \theta \right)^2 - \frac{1}{2} \sin^2 \theta - 2a \cos \theta + a^2 + 1 \\ &= 2 \left(t - \frac{1}{2} \sin \theta \right)^2 + \frac{1}{2} (\cos \theta - 2a)^2 - a^2 + \frac{1}{2} \end{aligned}$$

この値を V とすれば、 V は t と $\cos \theta$ についての 2 次関数である：

$$V = 2 \left(t - \frac{1}{2} \sin \theta \right)^2 + \frac{1}{2} (\cos \theta - 2a)^2 - a^2 + \frac{1}{2}$$

t は実数全体を動き得るから、任意の θ について $t = \frac{1}{2} \sin \theta$ となる $t = t_0$ が存在し、 t をこの値に定めれば $t - \frac{1}{2} \sin \theta = 0$ となる。従って $t = t_0$ のとき、 V は次の V_1 に等しい：

$$V_1 = \frac{1}{2} (\cos \theta - 2a)^2 - a^2 + \frac{1}{2}$$

ここで、 $\cos \theta - 2a$ の値が 0 となり得るか否か、で場合を分ける：

Case 1. $\cos \theta - 2a = 0$ となる θ が存在するとき。

これは $-1 \leq 2a \leq 1 \iff -\frac{1}{2} \leq a \leq \frac{1}{2}$. ただし $a \geq 0$ であるから, $0 \leq a \leq \frac{1}{2}$ のときである. このとき,

$$\min V_1 = -a^2 + \frac{1}{2} \quad \therefore \quad \min PQ = \sqrt{-a^2 + \frac{1}{2}}$$

Case 2. $\cos \theta - 2a = 0$ となる θ が存在しないとき.

これは $\frac{1}{2} < a$ のときであり, V_1 が最小となるのは $|\cos \theta - 2a|$ が最小のときである. $-2a < -1$ であるから, $\cos \theta = 1 \iff \theta = 0$ のとき, $|\cos \theta - 2a|$ は最小となる:

$$\min |\cos \theta - 2a| = |1 - 2a|$$

従って

$$\min V_1 = \frac{1}{2}|1 - 2a|^2 - a^2 + \frac{1}{2} = a^2 - 2a + 1 \quad \therefore \quad \min PQ = |a - 1|$$

以上, Cases 1, 2 より,

$$\min PQ = \begin{cases} \sqrt{-a^2 + \frac{1}{2}} & \left(0 \leq a \leq \frac{1}{2} \right) \\ |a - 1| & \left(\frac{1}{2} < a \right) \end{cases} \quad (\text{答})$$

NOTE .

平面と直線のなす角の定義を確認しておくこと.

添削課題

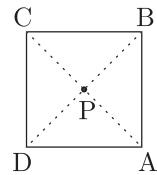
【1】 $|x - a| \leq \frac{1}{2}$, $|y - b| \leq \frac{1}{2}$ で表される正方形は、両辺が両軸に平行で、一辺の長さが 1 となる。点 $P(a, b)$ は点 $(2, 1)$ を中心とした半径 1 の円周上を動くので、その軌跡は $(a - 2)^2 + (b - 1)^2 = 1$

である。これを媒介変数表示にすると

$$\begin{cases} a - 2 = \cos \theta \\ b - 1 = \sin \theta \end{cases} \cdots ①$$

右図の正方形 ABCD の対角線の交点が P であるから

$$\begin{aligned} C &\left(a - \frac{1}{2}, b + \frac{1}{2} \right) \\ D &\left(a - \frac{1}{2}, b - \frac{1}{2} \right) \end{aligned}$$



ここで

$$\begin{aligned} \overline{OC}^2 &= \left(a - \frac{1}{2} \right)^2 + \left(b + \frac{1}{2} \right)^2 \\ &= \left(a - \frac{1}{2} \right)^2 + \left(b - \frac{1}{2} \right)^2 + 2 \left(b - \frac{1}{2} \right) + 1 \\ &= \left(a - \frac{1}{2} \right)^2 + \left(b - \frac{1}{2} \right)^2 + 2b \\ &\geq \left(a - \frac{1}{2} \right)^2 + \left(b - \frac{1}{2} \right)^2 = \overline{OD}^2 \quad (\because ① \text{より}, 0 \leq b \leq 2) \end{aligned}$$

$\overline{OC} \geq \overline{OD}$ より

$$f(P) = \overline{OD}$$

また

$$\overline{OD}^2 = \left(a - \frac{1}{2} \right)^2 + \left(b - \frac{1}{2} \right)^2 \cdots ②$$

②式に、①を代入して

$$\begin{aligned} \overline{OD}^2 &= \left(\frac{3}{2} + \cos \theta \right)^2 + \left(\frac{1}{2} + \sin \theta \right)^2 \\ &= \frac{10}{4} + 1 + 3 \cos \theta + \sin \theta \\ &= \frac{14}{4} + \sqrt{10} \cos(\theta - \phi) \quad \left(\text{ただし, } \cos \phi = \frac{3}{\sqrt{10}}, \sin \phi = \frac{1}{\sqrt{10}} \right) \\ &\leq \frac{14 + 4\sqrt{10}}{4} = \left(\frac{\sqrt{10} + 2}{2} \right)^2 \cdots (*) \\ &\quad (\cos(\theta - \phi) = 1 \text{ のとき等号成立}) \end{aligned}$$

よって

$$\overline{OD} \leq 1 + \frac{\sqrt{10}}{2} \quad (\text{答})$$

<参考>

(*) に関して. $\cos(\theta - \phi) = 1$ のとき

$$3\cos\theta + \sin\theta = \sqrt{10}$$

$\sin\theta$ を右辺に移項してから, 平方すると

$$10\sin^2\theta - 2\sqrt{10}\sin\theta + 1 = 0 \implies (\sqrt{10}\sin\theta - 1)^2 = 0$$

$$\therefore \sin\theta = \frac{1}{\sqrt{10}}, \cos\theta = \frac{3}{\sqrt{10}}$$

$$(a, b) = \left(2 + \frac{3}{\sqrt{10}}, 1 + \frac{1}{\sqrt{10}}\right) \text{ より}$$

$$D \left(\frac{3(2 + \sqrt{10})}{2\sqrt{10}}, \frac{2 + \sqrt{10}}{2\sqrt{10}} \right)$$

なお, このように図形に動きを与えて, 各種の値の最大, 最小を論ずる出題を東大は好む傾向にある.

25章 図形(3)

問題

【1】題意を図示すれば、図1のようになる。

図1

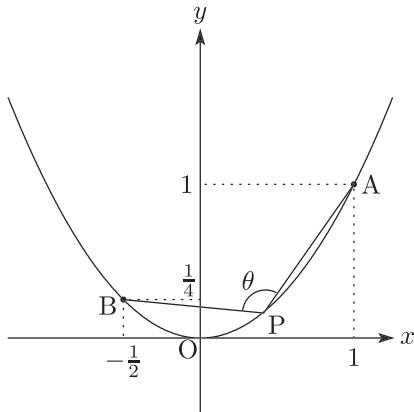


図2：外角定理

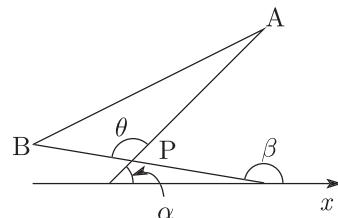


図2のように、 $\angle APB = \theta$ 、また \overrightarrow{PA} , \overrightarrow{PB} がx軸正方向となす角を α , β とすれば、3角形の外角定理より

$$\beta = \theta + \alpha, \quad \therefore \theta = \beta - \alpha$$

となる。従って、 \tan についての加法定理によって

$$\tan \theta = \frac{\tan \beta - \tan \alpha}{1 + \tan \alpha \tan \beta}$$

ここで $P(t, t^2)$ とすれば

$$\tan \alpha = \frac{1-t^2}{1-t} = 1+t, \quad \tan \beta = \frac{\frac{1}{4}-t^2}{-\frac{1}{2}-t} = \frac{-\left(t^2-\frac{1}{4}\right)}{-\left(t+\frac{1}{2}\right)} = t-\frac{1}{2}$$

$$\begin{aligned} \therefore \tan \theta &= \frac{\left(t-\frac{1}{2}\right)-(t+1)}{1+\left(t-\frac{1}{2}\right)(t+1)} \\ &= \frac{-3}{2+(2t-1)(t+1)} \\ &= \frac{-3}{2t^2+t+1} \end{aligned}$$

ここで

$$2t^2+t+1 = 2\left(t+\frac{1}{4}\right)^2 + \frac{7}{8} \geq \frac{7}{8} > 0$$

より、 $\tan \theta$ はつねに負である。よって θ はつねに鈍角である。

$\frac{\pi}{2} < \theta < \pi$ では、 $\tan \theta$ は単調に増加するから、 $\theta = \angle APB$ が最小になるのは、 $\tan \theta$ が

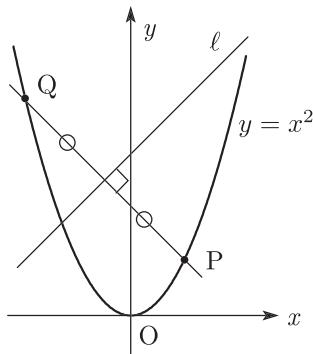
最小のときであり、これは $2t^2+t+1$ が最小になるときである。

以上より

$$t = -\frac{1}{4} \text{ のとき } \angle APB \text{ は最小であり、そのとき } P\left(-\frac{1}{4}, \frac{1}{16}\right) \quad (\text{答})$$

【2】 $P(p, p^2)$, $Q(q, q^2)$ ($p \neq q$) とし, 直線 $y = ax + 1$ を ℓ とする.

図 3



まず $a = 0$ ならば, ℓ は $y = 1$ となり, ℓ と垂直な直線と放物線との共有点はただ 1 個しか存在しない. これは題意をみたさないから, 以下 $a \neq 0$ で考察する.

P と Q が直線 ℓ に関して対称ならば, PQ の中点が ℓ の上にあり, かつ, $PQ \perp \ell$ である. これより

$$\frac{p^2 + q^2}{2} = a \frac{p+q}{2} + 1, \quad \frac{p^2 - q^2}{p-q} \cdot a = -1$$

$$\therefore (p+q)^2 - 2pq = a(p+q) + 2, \quad a(p+q) = -1 \quad \dots \dots \textcircled{1}$$

① の第 2 式より, $a \neq 0$ であることに注意すると, ① は

$$pq = \frac{(p+q)^2 - a(p+q) - 2}{2}, \quad p+q = -\frac{1}{a}$$

$$\therefore pq = \frac{1-a^2}{2a^2}, \quad p+q = -\frac{1}{a}$$

と变形できて, p, q は, t に関する 2 次方程式

$$t^2 + \frac{1}{a}t + \frac{1-a^2}{2a^2} = 0 \quad (\#)$$

の 2 解となる. よって題意の異なる点 P, Q の存在はこの 2 次方程式 (#) が異なる 2 実解をもつことと同値である.

よって (#) の判別式を $D_{\#}$ として, $D_{\#} > 0$ が成り立つことが必要かつ十分である:

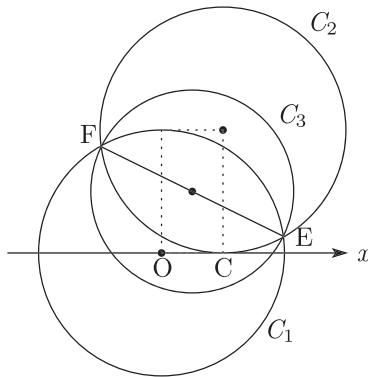
$$D_{\#} = \left(\frac{1}{a}\right)^2 - 4 \frac{1-a^2}{2a^2} > 0 \quad \therefore 1 - 2(1-a^2) > 0, a \neq 0 \iff a^2 > \frac{1}{2}$$

よって

$$a < -\frac{1}{\sqrt{2}} \text{ または } \frac{1}{\sqrt{2}} < a \quad (\text{答})$$

【3】 $C_1 : x^2 + y^2 = 28$ とする。折り返してできる円 C_2 は $C(\sqrt{7}, 0)$ で x 軸と接するから、 C_2 の中心の x 座標は $\sqrt{7}$ である。

図 4



また C_2 の半径は C_1 の半径と等しいから、 C_2 の中心は $(\sqrt{7}, 2\sqrt{7})$ となり、 C_2 の方程式は

$$C_2 : (x - \sqrt{7})^2 + (y - 2\sqrt{7})^2 = 28$$

$$\therefore x^2 - 2\sqrt{7}x + y^2 - 4\sqrt{7}y + 7 = 0$$

となる。

C_1 と C_2 の 2 交点を通る円 C_3 の方程式は、 k を $k \neq -1$ の実数として

$$x^2 - 2\sqrt{7}x + y^2 - 4\sqrt{7}y + 7 + k(x^2 + y^2 - 28) = 0$$

$$\iff (1+k)x^2 - 2\sqrt{7}x + (1+k)y^2 - 4\sqrt{7}y + 7 - 28k = 0$$

$$\iff x^2 - \frac{2\sqrt{7}}{1+k}x + y^2 - \frac{4\sqrt{7}}{1+k}y + \frac{7-28k}{1+k} = 0$$

$$\begin{aligned} &\iff \left(x - \frac{\sqrt{7}}{1+k}\right)^2 + \left(y - \frac{2\sqrt{7}}{1+k}\right)^2 \\ &= \frac{28k-7}{1+k} + \left(\frac{\sqrt{7}}{1+k}\right)^2 + \left(\frac{2\sqrt{7}}{1+k}\right)^2 \quad \dots\dots \textcircled{1} \end{aligned}$$

と表されるから、 C_3 の中心の座標は

$$\left(\frac{\sqrt{7}}{1+k}, \frac{2\sqrt{7}}{1+k}\right)$$

① のうち、 EF を直径とする円の中心の座標は

$$\left(\frac{\sqrt{7}}{2}, \sqrt{7}\right)$$

だからこれらを比較して

$$\frac{\sqrt{7}}{1+k} = \frac{\sqrt{7}}{2} \quad \therefore k = 1$$

これより ① は

$$\left(x - \frac{\sqrt{7}}{2}\right)^2 + (y - \sqrt{7})^2 = \frac{77}{4}$$

これと x 軸との交点の x 座標は

$$\left(x - \frac{\sqrt{7}}{2} \right)^2 + (0 - \sqrt{7})^2 = \frac{77}{4} \quad \therefore \quad \left(x - \frac{\sqrt{7}}{2} \right)^2 = \frac{49}{4} \iff x = \frac{\sqrt{7}}{2} \pm \frac{7}{2}$$

よって求める距離は

$$\left(\frac{\sqrt{7}}{2} + \frac{7}{2} \right) - \left(\frac{\sqrt{7}}{2} - \frac{7}{2} \right) = 7 \quad (\text{答})$$

【4】直線 $\ell : y = ax + b$ について、一般形に直し、左辺を $f(x, y)$ とする：

$$\ell : f(x, y) = ax - y + b = 0$$

線分 AB と直線 ℓ がただ 1 個の共有点をもつのは、次のいずれかである：

- ℓ が開線分 AB (つまり端点 A, B を除いた線分) と共有点をもつ。
- ℓ が端点 A, B のいずれか一方のみを通る。

それぞれを Case 1, Case 2 とする。

Case 1. 直線 ℓ が開線分 AB と 1 点を共有するとき。

このとき、2 点 A と B は、 x, y の 1 次式 $f(x, y)$ の正領域と負領域に分かれる。

従って、 $f(0, 2)$ と $f(2, -2)$ は異符号になるから

$$f(0, 2) \cdot f(2, -2) < 0$$

$f(0, 2) = -2 + b, f(2, -2) = 2a + 2 + b$ であるから

$$f(0, 2) \cdot f(2, -2) < 0 \iff (-2 + b)(2a + 2 + b) < 0$$

$$\iff (b - 2)(b + 2a + 2) < 0$$

$$\iff \begin{cases} b > 2 \\ b < -2a - 2 \end{cases} \quad \text{または} \quad \begin{cases} b < 2 \\ b > -2a - 2 \end{cases}$$

Case 2. ℓ が線分 AB の一方の端点を通るとき、

$$f(0, 2) = 0 \text{ または } f(2, -2) = 0 \iff b - 2 = 0 \text{ または } 2a + b + 2 = 0$$

ただし、2 点 A と B の両方を通るとき、 ℓ は直線 AB に一致してしまい、不適である。よって

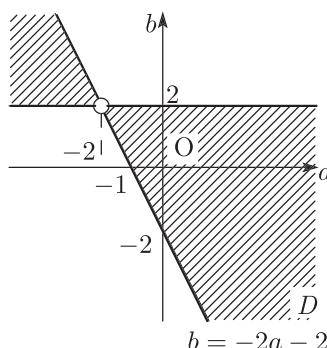
“ $b - 2 = 0$ かつ $2a + b + 2 = 0$ ” であることはない

から、 $b - 2 \neq 0$ または $2a + b + 2 \neq 0$ である。従って、点 $(-2, 2)$ を除く。

以上より、求める点 (a, b) の存在領域 D は

$$\begin{cases} b \geq 2 \\ b \leq -2a - 2 \end{cases} \quad \text{または} \quad \begin{cases} b \leq 2 \\ b \geq -2a - 2 \end{cases} \quad \text{ただし、点 } (-2, 2) \text{ を除く。} \quad (\text{答})$$

図 5



ab 座標平面に図示すれば、図 5 を得る。

【5】(1) y 軸に接する円 C_1, C_2 は中心の x 座標が半径に一致する.

2 円 C_1, C_2 が P で放物線の接線に接していることにより, C_1, C_2 の中心について, 次が成り立つ:

- C_1, C_2 の中心は, いずれも放物線の P における法線上にある.
- C_1, C_2 の中心の x 座標は, それぞれの半径に等しい.

逆に, この条件が成り立てば, 問題文の条件がみたされる.

2 円 C_1, C_2 の中心の x 座標を α として, α のみたすべき条件を求める.

P での法線は, $y = -\frac{1}{2t}(x-t)+t^2$ であるから, 中心の座標は $\left(\alpha, -\frac{1}{2t}(\alpha-t)+t^2\right)$ である.

これと (t, t^2) との距離が α となるから

$$(t-\alpha)^2 + \frac{1}{4t^2}(\alpha-t)^2 = \alpha^2$$

従って

$$\alpha = t\sqrt{1+4t^2} \left(\sqrt{1+4t^2} \pm 2t \right)$$

この 2 つが C_1 と C_2 の中心である.

$R > r$ より,

$$\frac{R}{r} = \frac{\sqrt{1+4t^2} + 2t}{\sqrt{1+4t^2} - 2t} = \left(\sqrt{1+4t^2} + 2t \right)^2$$

$$\therefore \lim_{t \rightarrow 0} \frac{R}{r} = 1$$

従って, $\frac{R}{r}$ の取り得る値の範囲は, $1 < \frac{R}{r} < \infty$ である. (答)

(2) $\frac{R}{r} = 2$ より,

$$\left(\sqrt{1+4t^2} + 2t \right)^2 = 2$$

$$\sqrt{4t^2 + 1} = \sqrt{2} - 2t \quad \cdots (*)$$

$$4t^2 + 1 = 2 - 4\sqrt{2}t + 4t^2$$

$$4\sqrt{2}t = 1$$

$$\therefore t = \frac{1}{4\sqrt{2}}$$

$$\left((*) \text{ の右辺} = \sqrt{2} - 2 \cdot \frac{1}{4\sqrt{2}} = \frac{3}{4}\sqrt{2} > 0 \text{ となり適する.} \right)$$

よって求める点 P の座標は $P \left(\frac{1}{4\sqrt{2}}, \frac{1}{32} \right)$ (答)

添削課題

【1】 $y = x^2$ より,
 $y' = 2x$

だから、 C の Q における接線の傾きは $2t$.

よって、 C の Q における法線の傾きは $-\frac{1}{2t}$ である.

よって、この法線の方向ベクトルは

$$(-2t, 1)$$

であり、この方向の単位ベクトルは

$$\left(\frac{-2t}{\sqrt{1+4t^2}}, \frac{1}{\sqrt{1+4t^2}} \right)$$

である.

$$|\overrightarrow{PQ}| = (t - t^2) \sqrt{1 + 4t^2}$$

だから、

$$\begin{aligned} \overrightarrow{PQ} &= (t - t^2) \sqrt{1 + 4t^2} \left(\frac{-2t}{\sqrt{1+4t^2}}, \frac{1}{\sqrt{1+4t^2}} \right) \\ &= (-2t(t - t^2), t - t^2) \\ \therefore \overrightarrow{OP} &= \overrightarrow{OQ} + \overrightarrow{QP} \\ &= (t - 2t^2 + 2t^3, t^2 + t - t^2) \\ &= (t - 2t^2 + 2t^3, t) \end{aligned}$$

ここで

$$\overrightarrow{OP} = (X, Y)$$

とすると

$$X = t - 2t^2 + 2t^3, Y = t$$

だから、 t を消去して

$$X = Y - 2Y^2 + 2Y^3$$

$|\overrightarrow{PQ}| = 0$ の場合 C と C' は共有点をもつから

$$t - t^2 = 0 \quad \therefore \quad t = 0, 1$$

$$\therefore y = 0, 1$$

で共有点をもつ.

よって、とり得る値の範囲に注意して

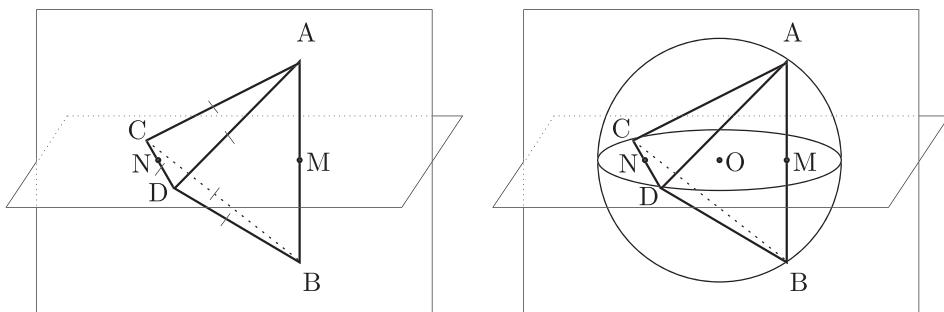
$$x = y - 2y^2 + 2y^3 \quad (0 \leqq y \leqq 1) \quad (\text{答})$$

26章 図形 (4)

問題

【1】題意の4面体を描くと、図1のように、対称面が2つ存在する。また、対称面と球の状態を考えると、対称面上に球の中心Oが存在することが解る。

図1



線分ABの中点をM、線分CDの中点をNとすると、三平方の定理より

$OA^2 = OM^2 + AM^2$ が成り立つから、

$$r^2 = OM^2 + \left(\frac{\sqrt{3}}{2}\right)^2 = OM^2 + \frac{3}{4} \quad \dots \dots \textcircled{1}$$

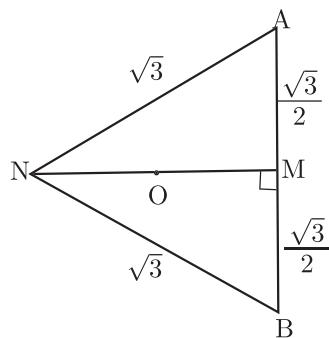
また、 $OC^2 = ON^2 + CN^2$ が成り立つから、

$$r^2 = ON^2 + 1 \quad \dots \dots \textcircled{2}$$

$\textcircled{2} - \textcircled{1}$ より、

$$0 = ON^2 - OM^2 + \frac{1}{4} \quad \therefore (OM + ON)(OM - ON) = \frac{1}{4} \quad \dots \dots \textcircled{3}$$

図2



ここで、図2より、

$$OM + ON = \frac{3}{2} \quad \dots \dots \textcircled{4}$$

が成り立つから、 $\textcircled{3}$, $\textcircled{4}$ より、

$$OM - ON = \frac{1}{6} \quad \dots \dots \textcircled{5}$$

よって、④、⑤より、

$$ON = \frac{2}{3}$$

これを②に代入して、

$$r^2 = \left(\frac{2}{3}\right)^2 + 1 = \frac{13}{9} \quad \therefore r = \frac{\sqrt{13}}{3} \quad (\text{答})$$

[2] (1) $\angle APB \geq 90^\circ$ より、PはABを直径とする球面およびその内部にある。逆にAB

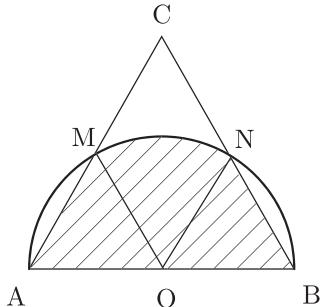
を直径とする球面およびその内部の任意の点Pは $\angle APB \geq 90^\circ$ をみたす。

よって、SはABを直径とする球面およびその内部である。 (答)

(2) 図3を参照せよ。

ABの中点をOとする。AB=2であるから、平面ABCとSとの交わりはOを中心とする半径1の円になる。

図3

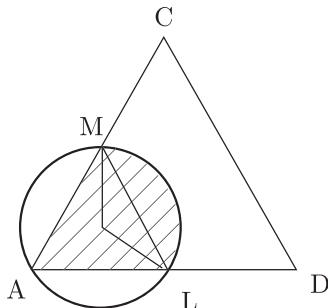


この円と辺AC、BCとの交点をそれぞれM、Nとするとき、M、Nは各辺の中点である。よって、求める面積は

$$2 \cdot \frac{1}{2} \cdot 1^2 \sin 60^\circ + \pi \cdot \frac{60}{360} = \frac{\sqrt{3}}{2} + \frac{\pi}{6} \quad (\text{答})$$

(3) 三角形ABDとSとの交わりの面積は、三角形ABCとSとの交わりの面積に等しい。図4を参照せよ。

図4



ADの中点をLとするとき、三角形ACDとSとの交わりは三角形AMLの外接円

になるから、その半径 r は、正弦定理により

$$r = \frac{1}{2 \sin 60^\circ} = \frac{1}{\sqrt{3}}$$

よって、交わりの面積は

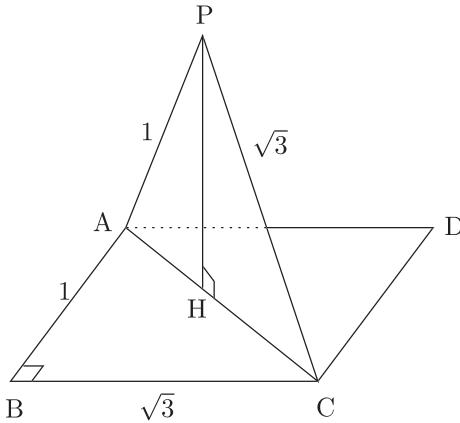
$$2 \cdot \frac{1}{2} \left(\frac{1}{\sqrt{3}} \right)^2 \sin 120^\circ + \pi \left(\frac{1}{\sqrt{3}} \right)^2 \cdot \frac{120}{360} = \frac{\sqrt{3}}{6} + \frac{\pi}{9}$$

3 角形 BCD と S との交わりの面積も同様であるから、求める面積は

$$2 \left(\frac{\sqrt{3}}{2} + \frac{\pi}{6} \right) + 2 \left(\frac{\sqrt{3}}{6} + \frac{\pi}{9} \right) = \frac{4\sqrt{3}}{3} + \frac{5\pi}{9} \quad (\text{答})$$

- 【3】 A を始点とする位置ベクトルを $\vec{B}(\vec{b}), \vec{C}(\vec{c}), \vec{D}(\vec{d}), \vec{P}(\vec{p})$ とする。

図 5



- (1) $\vec{BP} = \vec{p} - \vec{b}, \vec{DP} = \vec{p} - \vec{d}$ であるから

$$\begin{aligned} \vec{BP} \cdot \vec{DP} &= (\vec{p} - \vec{b}) \cdot (\vec{p} - \vec{d}) \\ &= |\vec{p}|^2 - (\vec{b} + \vec{d}) \cdot \vec{p} + \vec{b} \cdot \vec{d} \\ &= |\vec{p}|^2 - \vec{AC} \cdot \vec{p} \end{aligned}$$

ここで $|\vec{p}| = 1$ であり、また $\triangle APC$ で $\angle PAC = 60^\circ, AC = 2$ であるから
 $\vec{AC} \cdot \vec{p} = 2 \cdot 1 \cdot \cos 60^\circ = 1$

よって

$$\vec{BP} \cdot \vec{DP} = 1^2 - 1 = 0 \quad \therefore \quad \angle BPD = 90^\circ \quad (\text{答})$$

- (2) (1) より、 $\vec{BP} \perp \vec{DP}$ であるから

$$\triangle BPD = \frac{1}{2} |\vec{BP}| |\vec{DP}|$$

ここで

$$|\vec{BP}|^2 = |\vec{p} - \vec{b}|^2 = 2 - 2 \vec{b} \cdot \vec{p}$$

$$|\vec{DP}|^2 = |\vec{p} + \vec{b} - \vec{c}|^2$$

$$\begin{aligned}
&= 1 + 1 + 4 + 2 \vec{b} \cdot \vec{p} - 2 \cdot 1 \cdot 2 \cdot \frac{1}{2} - 2 \cdot 2 \cdot 1 \cdot \frac{1}{2} \\
&= 2 + 2 \vec{b} \cdot \vec{p} \\
\therefore \quad &|\overrightarrow{BP}|^2 |\overrightarrow{DP}|^2 = 4 \{1 - (\vec{b} \cdot \vec{p})^2\}
\end{aligned}$$

従って

$$\triangle BPD = \sqrt{1 - (\vec{b} \cdot \vec{p})^2}$$

となり、 $|\vec{b} \cdot \vec{p}|$ が最小のとき $\triangle BPD$ の面積は最大となる。

P から AC に下ろした垂線の足を H とすると

$$\begin{aligned}
\vec{p} \cdot \vec{b} &= (\overrightarrow{AH} + \overrightarrow{HP}) \cdot \vec{b} \\
&= \overrightarrow{AH} \cdot \vec{b} + \overrightarrow{HP} \cdot \vec{b} \\
&= \frac{1}{2} \cdot 1 \cdot \frac{1}{2} + \overrightarrow{HP} \cdot (\overrightarrow{AH} + \overrightarrow{HB}) \\
&= \frac{1}{4} + \overrightarrow{HP} \cdot \overrightarrow{HB}
\end{aligned}$$

ここで \overrightarrow{HP} , \overrightarrow{HB} のなす角を θ とすれば

$$\vec{b} \cdot \vec{p} = \frac{1}{4} + \frac{\sqrt{3}}{2} \cdot \frac{\sqrt{3}}{2} \cos \theta = \frac{1}{4} + \frac{3}{4} \cos \theta$$

であるから、 $\cos \theta = -\frac{1}{3}$ のとき、 $\vec{b} \cdot \vec{p} = 0$ となり、このとき $|\vec{b} \cdot \vec{p}|$ は最小値 0 をとる。

このとき

$$\triangle BPD = \sqrt{1 - 0} = 1$$

だから、求める最大値 $\max \triangle BPD$ は

$$\max \triangle BPD = 1 \quad (\text{答})$$

また、面 PAC と面 π とのなす角 α は、2直線 BH, PH のなす角に等しい。ただし、 $0 \leq \alpha \leq \frac{\pi}{2}$ である。 \overrightarrow{HB} と \overrightarrow{HP} のなす角 θ について、 $\cos \theta = -\frac{1}{3}$ であるから、 $\theta > \frac{\pi}{2}$ である。

よって $\alpha = \pi - \theta$ であるから、求める α の余弦は

$$\cos \alpha = \cos(\pi - \theta) = -\cos \theta = -\left(-\frac{1}{3}\right) = \frac{1}{3} \quad (\text{答})$$

【4】点 A を原点とすると AG 上の点は P(α, α, α) と表されるから

$$x = \sqrt{3}\alpha \quad \because \quad \alpha^2 = \frac{1}{3}x^2 \quad (\text{ただし } 0 \leq \alpha \leq 1)$$

P を通り AG に垂直な面 π 上の点 T(X, Y, Z) について

$$\overrightarrow{PT} \perp \overrightarrow{AG} \quad \text{より} \quad \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix} \cdot \begin{pmatrix} X - \alpha \\ Y - \alpha \\ Z - \alpha \end{pmatrix} = 0 \quad \therefore \quad X + Y + Z - 3\alpha = 0$$

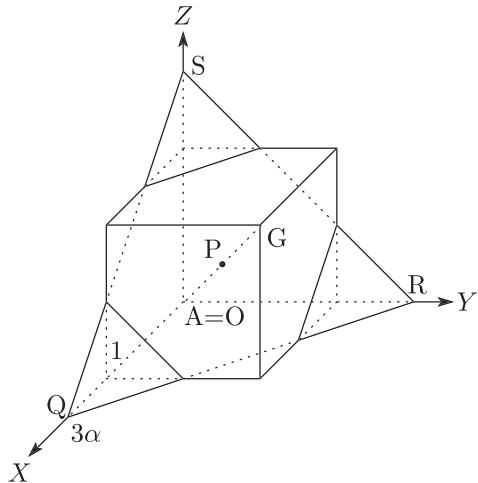
よって、平面 π と軸との交点として

$$Q(3\alpha, 0, 0), \quad R(0, 3\alpha, 0), \quad S(0, 0, 3\alpha)$$

(i) $0 < 3\alpha \leq 1 \iff 0 < \alpha \leq \frac{1}{3} \iff 0 < x \leq \frac{1}{\sqrt{3}}$ のとき。断面は、1辺

の長さが $3\sqrt{2}\alpha$ の正 3 角形となる。

図 6



$$\therefore S = \frac{\sqrt{3}}{4} (3\sqrt{2}\alpha)^2 = \frac{\sqrt{3}}{4} \cdot 18\alpha^2 = \frac{\sqrt{3}}{4} \cdot 18 \cdot \frac{x^2}{3} = \frac{3\sqrt{3}}{2} x^2$$

$$(ii) 1 \leq 3\alpha \leq 2 \iff \frac{1}{3} \leq \alpha \leq \frac{2}{3} \iff \frac{1}{\sqrt{3}} \leq x \leq \frac{2}{\sqrt{3}} \text{ のとき.}$$

断面は 6 角形であり、その面積 S は 1 辺の長さが $3\sqrt{2}\alpha$ の正 3 角形の面積から、1 辺の長さが $\sqrt{2}(3\alpha - 1)$ の正 3 角形の面積をを 3 つ分引いて得られる。よって

$$\begin{aligned} S &= \frac{\sqrt{3}}{4} (3\sqrt{2}\alpha)^2 - 3 \cdot \frac{\sqrt{3}}{4} \{ \sqrt{2}(3\alpha - 1) \}^2 \\ &= \frac{\sqrt{3}}{4} \cdot 6 \{ 3\alpha^2 - (3\alpha - 1)^2 \} \\ &= \frac{\sqrt{3}}{4} \cdot 6 (-6\alpha^2 + 6\alpha - 1) \\ &= \frac{3\sqrt{3}}{2} (-2x^2 + 2\sqrt{3}x - 1) \end{aligned}$$

$$(iii) 2 \leq 3\alpha < 3 \iff \frac{2}{3} \leq \alpha < 1 \iff \frac{2}{\sqrt{3}} \leq x < \sqrt{3} \text{ のとき.}$$

立方体の対角線 OG の中点に関する対称性に着目して、(i) の x を $\sqrt{3} - x$ にかえ

$$\text{て, } S = \frac{3\sqrt{3}}{2} (\sqrt{3} - x)^2$$

以上より

$$\begin{cases} 0 < x \leq \frac{1}{\sqrt{3}} \text{ のとき, } S = \frac{3\sqrt{3}}{2} x^2 \\ \frac{1}{\sqrt{3}} \leq x \leq \frac{2}{\sqrt{3}} \text{ のとき, } S = \frac{3\sqrt{3}}{2} (-2x^2 + 2\sqrt{3}x - 1) \\ \frac{2}{\sqrt{3}} \leq x < \sqrt{3} \text{ のとき, } S = \frac{3\sqrt{3}}{2} (\sqrt{3} - x)^2 \end{cases} \quad (\text{答})$$

M3JSB/M3JB/M3TB
選抜東大クラス文系数学
東大文系数学
難関大文系数学 T



会員番号	
氏名	